

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所

事業所名（施設名）：聖愛保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。	○全国保育士会倫理要領、児童憲章、保育所保育指針などの趣旨をとらえて保育所の理念、保育方針・目標にもとづき職員の意見を反映して子どもの心身の発達や家庭、地域の実情に応じて保育課程の編成をしている。 ○保育実践、公開保育を通して保育課程に関して話し合い、評価を行い、次の編成に活かしている。 ○保育指針の改正に伴い、主任・副主任が中心となり、職員の意見をまとめて新しい保育課程の作成に取り組んでいる。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 <input checked="" type="checkbox"/> 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。	○保育室、廊下などは、室内は明るい色彩、採光が天井、窓から入り、換気、湿湿度、清潔が保持され、居心地の良い環境が整備されている。夏の高湿気象に備え、エアコンなどの設置が検討されている。 ○担任は随時、家具や遊具の素材・配置など検討し合い、子どもたちが触れる遊具、設備、用具、寝具等はマニュアルに沿い、定期的に見直し、安全点検、消毒などを行っている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	①		<p>■ 9 内装等には、木材を利用している。</p> <p>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</p> <p>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</p> <p>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</p>	<p>○広い廊下の一角を利用して本棚などを用意し、落ち着ける空間が作られている。</p> <p>○トイレは、部屋の奥に設置されている。手洗いは自動水洗、こまめな清掃がされ、明るく清潔で、安全に利用しやすい、広いトイレである。</p>
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<p>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</p> <p>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</p> <p>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</p> <p>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</p> <p>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</p> <p>■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント		
A	1	(2)	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	■ 19	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	○発達過程に合わせ生活のリズム、基本的な生活習慣(食事、排泄、睡眠、着脱、清潔など)を身につけることができるために、保育過程にもとづき保育士は、保育室内の工夫、洗面所、トイレなどの環境を整え一人ひとりの状態を見極めながら援助している。また、保護者、職員間の情報・協力を大切にして援助している。 ○子どもが自分でやろうとする気持ちを大切に、手洗い、うがい、歯磨き、ロッカーの使用について分かりやすく図解して掲示している。お弁当袋の出し入れ、ひもの結び方などが身につくように保護者の協力を得て、手作りの袋、紐を準備するなど工夫している。 ○年長児は自分の身体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な習慣や態度を身につけることを目標に取り組んでいる。	
					■ 20	基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。		
					■ 21	基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。		
					■ 22	一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。		
					■ 23	基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。		
				a)	■ 24	子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。		○集団保育、異年齢保育、個別対応の中で、子どもの主体性を尊重し、子どもの言葉などを受け止めて、自発的に活動ができるよう環境を整えている。 ○年6回運動保育士による指導を受け、プール遊びや日常の遊びに取り入れ、進んで身体を動かし、満足感や達成感が得られるよう援助している。 ○グループ活動で子ども同士で話し合う機会を作る、遊びを通して約束を守る、順番を待つなど、人間関係を育みながら生活態度が身につくよう援助している。 ○散歩、地域の祭りに参加、敬老会の慰問、ふれあい農園で共同作業をするなど地域の人たちと接したり、社会体験が得られる機会を設けている。
				■ 25	子どもが自発性を発揮できるよう援助している。			
				■ 26	遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。			
				■ 27	戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。			
				■ 28	生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。			
		④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント	
A	1	(2)	④		■ 29	子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。	○個人のロッカーには、自由にいつでも使えるように画用紙帳、クレヨン、絵本などの用意がある。年長クラスには、鉛筆やサインペンを置くなどして主体的に活動できる工夫をしている。
					■ 30	社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。	
					■ 31	身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。	
					■ 32	地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。	
					■ 33	様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。	
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 34	0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。	○保育室は天井が高く、窓からの採光が多く、テラスに出やすい構造である。遊び、睡眠、食事、排泄の支援をする場所が区別され清潔が保持されている。エアコンの設置もあり、乳児が長時間過ごすことに適した環境に配慮している。 ○手作りおもちゃ、絵本など子どもが興味を示す玩具などを用意し、保育士は乳児の状況に合わせて語りかけ、興味を示す絵本の読み聞かせなどを行っている。 ○入眠時は、乳児に寄り添い、抱っこをする等スキンシップを大切にしている。睡眠中は、マニュアルに沿い安全確認をしている。 ○乳児の発達過程に応じ、個別に養護と教育の一体的な保育の計画にもとづき保育実践をし、評価を行っている。 ○連絡帳を通して保育士は、乳児の家庭での状況を把握し、送迎時に連絡帳に記載している内容を含め丁寧に保育所での生活状況を説明をしている。
		■ 35			0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。		
		■ 36			子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。		
		■ 37			0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。		
		■ 38			0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。		
		■ 39			0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<p>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分であろうとする気持ちを尊重している。</p> <p>■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</p> <p>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</p> <p>■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</p> <p>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。</p> <p>■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</p> <p>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</p>	<p>○保育室は広く、食事、活動、睡眠、排泄をする場所が区別されている。トイレは部屋の奥に設置され、移動が容易にでき、使いやすい工夫されている。屋外に未満児専用の砂場、遊具があり自由に遊ぶことができる。玩具、備品、保育室内はマニュアルに沿い、消毒、清掃を行っている。</p> <p>○昼食・午睡前などは、絵本の読み聞かせ、手遊びなどを取り入れて精神的な安定を図っている。</p> <p>○遊戯室で保育士がリーダーになり皆でゲームを楽しむ、ぬいぐるみなどに興味を示した子どもには、遊びを通して友だちとの関係づくりをする、物に興味を示し探索や模倣をする子どもたち、一人ひとりに寄り添いながら援助している。様々な活動の中で充実感の得られる視点を持ち保育展開をしている。</p> <p>○自分でしたい気持ちを大切にしてお着脱などの行為は、声掛けをしてゆったりと安心してできるように見守っている。</p> <p>○保護者からは、会話の中での聞き取りや連絡帳を通して、一人ひとりの健康状態、生活リズムを把握している。担当保育士は連絡ノートの記録、送迎時に伝える等して保護者と連携を図っている。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<p>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p>	<p>○保育室、廊下が広くゆったりと活動している様子がうかがえた。園庭には、砂場、遊具、複数の桜の大木があり四季を通して子どもたちが興味や関心のある活動に取り組める環境にある。保育園に隣接して広い畑があり、野菜づくりを通して祖父母と交流する機会が得られている。運動会、高齢者施設などへの訪問を通して、子どもたちが協同して取り組んできた活動を発表する機会がある。</p> <p>○3歳児は、基本的な生活習慣を身につけ、健康的に生き生きと過ごし、保育士や友達に自分の思いを伝える喜びを知り、様々な活動に取り組み、達成感を味わえるようにしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑦		<p>■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</p>	<p>○4歳児は、周りの人に親しみを持ち、自己主張したり、相手の気持ちを大切にすることを育てるようにしている。ルールのある遊びを積極的に取り入れている。身近な環境に興味を持ち、感じたこと、想像したことなどを様々な方法で表現する取組をしている。</p> <p>○5歳児は、日常生活に見通しを持ち、必要な生活習慣を主体的に身につけ、友だちと一緒に協力し、発展させる取組をしている。自然に興味を示し、関心を持った内容を子ども自身が深める取組をしている。</p>
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<p>■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。</p> <p>■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</p> <p>■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</p> <p>■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。</p> <p>■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p>■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</p> <p>■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</p> <p>■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</p>	<p>○車いすが利用できるよう廊下からテラスの間は、段差が解消され、屋外に出やすい整備がされている。</p> <p>○子どもの状況に配慮した個別指導計画にもとづき、成長に応じた保育を行っている。当番活動を通して、子ども同士の関わりに配慮しながら、出来ることを保育士の見守りの中で行い、成長できる取組をしている。</p> <p>○研修会に職員は、事例発表をするなど積極的に参加し、職員に復命をして研鑽を積んでいる。</p> <p>○クラス懇談会などで子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</p> <p>○行政関係、医療機関などの関係機関と適切に連携を図っている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント		
A	1	(2)	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 59	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	○長時間保育は学年ごとに実施し、馴染みの保育士、部屋で子どもたちがゆったりと過ごせるよう配慮している。18時以降は帰宅できる用意をして一室に集まり、おやつを食べたりして穏やかに過ごせるよう援助している。 ○帰宅後の食事の配慮をしながら、子どもの状況に応じておやつ等の提供をしている。 ○長時間保育担当職員を中心に職員間の引き継ぎ、保護者との連携を責任を持って行い、利用状況に関して記録をしている。	
					■ 60	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。		
					■ 61	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。		
					■ 62	年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。		
					■ 63	保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。		
					■ 64	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。		
					■ 65	担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。		
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	■ 66	計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。		○行政、小学校など関係機関との連携が記載され、就学に向けた保育の目標が具体的にあり、保育の計画に沿って実施されている。 ○小学校での交流会、児童館訪問で説明を受ける機会を設けるなど小学校以降の生活に見通しを持つ機会がある。 ○保護者同伴で小学校1日入学や運動会に参加して小学校以降の見通しが持つ機会を設けている。 ○担当職員は幼保小連絡会に参加して就学に向けた連携を図っている。
					■ 67	子どもが、小学校以降の生活について見通しを持つ機会が設けられている。		
					■ 68	保護者が、小学校以降の子ども生活について見通しを持つ機会が設けられている。		
					■ 69	保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。		
					■ 70	施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント			
A	1	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<input type="checkbox"/>	71	子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	○安全管理マニュアルに健康管理についてうたわれ、健康診断（内科・歯科年2回）、身体測定（毎月）が計画され実施されている。 ○入園時に保護者に健康・安全について（健康管理、病気やけが、感染症、投薬、検診、事故防止など）入園資料にもとづいて園長は説明をしている。毎日の保育の中で体調の悪化、けがなどは保護者に伝え、事後の確認を行っている。 ○年度初めの家庭訪問で「家庭の調べ」をもとに既往歴、予防接種の状況など健康に関わる必要な情報を得ている。子どもの健康に関する情報は職員間で共有している。 ○乳幼児突然死症候群に関する知識を職員に周知し、睡眠中の確認など行っている。今後、保護者に対しても必要な情報提供が望まれる。	
					<input checked="" type="checkbox"/>	72	子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。		
					<input checked="" type="checkbox"/>	73	子どもの保健に関する計画を作成している。		
					<input checked="" type="checkbox"/>	74	一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。		
					<input checked="" type="checkbox"/>	75	既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。		
					<input type="checkbox"/>	76	保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。		
					<input checked="" type="checkbox"/>	77	職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。		
					<input type="checkbox"/>	78	保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。		
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/>	79	健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。		○健康診断、歯科検診の結果を保護者に書面にて報告している。検診に関する状況が職員が把握出来るよう担当職員は、治療状況も含めてノートにまとめ記録している。 ○歯磨きの励行、年長児のフッ素塗布など保育に反映している。健康診断、歯科検診の結果を保健に関する計画に作成されているが、保育の計画などに具体的に反映されることが望まれる。
					<input checked="" type="checkbox"/>	80	健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。		
<input checked="" type="checkbox"/>	81	家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。							

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(3)	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<input type="checkbox"/> 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 <input type="checkbox"/> 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 <input checked="" type="checkbox"/> 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	<p>○食物アレルギーを持つ子どもに対して、個別の対応マニュアルを作成し、医師の指示のもと、保護者と連携を取りながら対応している。</p> <p>○食事の提供は1人の保育士が付き添い、安全を確認している。危険な状態を回避するために手洗い場所を区別する等の配慮をしている。</p> <p>○園だよりにアレルギーに配慮する呼びかけの文章を記載して保護者に促している。</p> <p>○食物アレルギーについては「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに対応を強化している。アレルギー疾患全般、慢性疾患等に関する対応に関しても職員研修を実施し、内容を理解して組織的に食物アレルギー同様の取組をされることを期待したい。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 91 食器の材質や形などに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。	<p>○保育計画に、食に関して豊かな経験ができるよう食育の計画が立てられている。</p> <p>○環境を活かして、あおぞら給食、お花見給食を園庭やテラスで行っている。</p> <p>○食品の素材を味わう、咀嚼力をつけるなど意図的な調理方法がされ、皮つきの果物、繊維質の多い野菜など好んで食している。</p> <p>○盛り付けの量を加減する、おかわりをする、食欲のない子どもには無理強いしないなど個別に丁寧に対応している。</p> <p>○栄養士がクラスを回り、季節の野菜の紹介をする、食材の切り方を工夫する、子どもたちが作った野菜を使うなどして食事に興味や関心が持てる取組をしている。</p> <p>○給食だよりの発行、給食のサンプルを提示する等して保護者や家族に理解を深める取組をしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(4)	② 子どもがおいしく安心して食 べることのできる食事を提供 している。	a)	<p>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</p> <p>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</p> <p>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</p> <p>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</p> <p>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</p> <p>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</p> <p>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</p> <p>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</p>	<p>○栄養士・調理員は、子どもたちと一緒に食事をするなどして状況を把握し、職員を通して一人ひとりの子どもの発達・体調の状況を把握して献立・調理方法に活かしている。</p> <p>○野菜、果物などは、地元の旬の食材を積極的に使用している。すいとん、ハロウインのおぼけスープなど四季を意識した献立にしている。</p> <p>○鯉料理、煮こじなど地元の食材で郷土料理を提供する等、地域の食文化、行事食を大切にしている。</p> <p>○衛生管理マニュアルにもとづき定期的に関係者の保菌検査、調理室内の衛生管理に関する点検が実施され、調理員は衛生管理マニュアルに沿って調理を行っている。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との 緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるた めに、家庭との連携を行って いる。	a)	<p>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</p> <p>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</p> <p>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</p> <p>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</p>	<p>○連絡帳により家庭、保育園で子どもの様子を伝え合い、日常的な情報交換をしている。</p> <p>○園長は、入園準備会で保育理念・方針や保育内容について保護者に説明をする、毎月発行の園だよりにより日々の保育の意図などを掲載して保護者の理解を得る取組をしている。</p> <p>○家庭訪問、クラス懇談会、個人面談、保育参観、保育参加、送迎時など様々な機会を活用して子どもの成長を共有出来る支援をしている。</p> <p>○担当保育士は、家庭の状況、保護者との情報交換の内容を記録している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	2	(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 112 相談内容を適切に記録している。 <input checked="" type="checkbox"/> 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	○日々の送迎時に保護者とコミュニケーションを取り、信頼関係を築くよう取り組んでいる。 ○保護者からの相談は担当保育士が受け、必要に応じて助言が受けられる体制が整っている。保育園で解決できない内容は行政機関に助言を求めている。 ○保護者からの相談は、就労時間に配慮して相談時間を決めている。年3回「先生と話そう週間」を計画して保護者が相談する機会を設けている。
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 <input type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<p>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</p> <p>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</p> <p>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</p> <p>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</p> <p>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</p> <p>■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</p>	<p>○保育士は、自己評価をもとに学年会、3歳未満児会、3歳以上児会、職員会の話し合いを通して保育実践の振り返りを定期的に行っている。</p> <p>○年10回の公開保育を行い、一人ひとりの子どもの活動、取り組む過程に着目して担当した保育士は自己評価をしている。職員会では、自己評価にもとづき保育課程に沿いながら検討を深め、保育の改善や専門性の向上に繋げ、保育課程に反映している。</p>